

ウソ（アトリ科） 全長16センチ

2月は例年より暖かい天気が続いたが、3月に入ると一転して寒さが戻ってしまった。

3月8日、雄物川沿いの桜並木を眺めていると、枝先で小鳥が忙しく動き回っていた。首の辺りが赤く、短めのクチバシ。ウソのオスで、お腹のあたりが淡い赤色も現れた。こちらは亜種のアカウソ。枝から枝へと移動しながら桜の花芽を啄んでいる。

樹種はソメイヨシノで固く閉じたままであるが、次から次へと片っ端から食べている。全てを飲み込んでいる訳では無く、堅い殻は吐き出していた。食性は草木の種子や芽を採取し、昆虫類なども食べると言われている。特にソメイヨシノの蕾を好んで食べ、他のサクラ類はあまり食べないと言われる。



オスは喉元が紅い。

今年は桜の開花予想が例年より少し早まりそうで、各地の桜祭り会場は満開の開花を願っていることでしょう。各地の桜会場の関係者は、ウソの被害が出ないかと心配している事でしょう。過去に角館桜会場の殆どが花を付けず、観光客をがっかりさせた年もありました。

樹木医のK氏にウソとの関係を聞いたら、確かに犯人はウソだと言っている。桜の天敵とも言われるウソですが、桧内川数百本の桜並木が一斉に枯れたのは野鳥のせいでしょうか。



花芽を食べている。



腹部が淡い赤色。亜種のアカウソ。

私見であるが、あれだけの本数を1本残らず枝の下から上まで食べつくすことができるだろうか。こうした現象は全体的に発生していることから、遅霜などによる自然現象も関係していることはないだろうか。どちらが正解かは分かりませんが、皆さんはどう思いますか。



メスは地味な色合いです。



メス。クチバシでしごきながら固い部分を吐き出した。